

令和4年度第1回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会
＜議事概要＞

【会議概要】

- ・ 日 時：令和4年8月18日(木)15:00～16:30
- ・ 場 所：和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・ 欠席者：井元委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
 - 1) 和泉市地域公共交通網形成計画事業の進捗状況について
4. その他

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：本日は開催にあたり公私多忙の中の出席に感謝申し上げます。また、日頃交通行政をはじめ市政全般へのご協力に感謝申し上げます。今般、記録的な大雨が断続的に発生しており、大規模な冠水など大きな被害もたらされているが、被災されている地域においては様々な交通機関に大きな影響が出ている。年々甚大化する自然災害への脅威については、災害時の移動手段・モビリティ確保が重要になってくる。

また、新型コロナウイルス第7波が猛威を振るっている中、公共交通事業者にとっては利用者の減少に伴う減収に加え感染対策の追加コストなど経営状況は厳しい状況にある中、公共交通の役割は通勤、通学、通院、買物及び自動車を保有、運転できない方にとって重要な支えである。公共交通を確保していくためには事業者をはじめ関係機関の協力が必要であり、関係各位の理解、支援をよろしくお願いしたい。

本日は計画事業の進捗状況について、ご審議頂ければ幸いである。委員各位には本市の利用促進と活性化に向けて議論をお願いしたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

- 1) 和泉市地域公共交通網形成計画事業の進捗状況について

(事務局より資料 1-1, 1-2 を説明)

①基本方針 1 について

居石委員：基本方針 2 の⑤で周遊観光バスを今年度から運行とあるが、具体的な内容を教えて欲しい。

関戸委員：令和 2 年度から運行開始を予定していたところコロナ禍のため 4 年度当初まで見送っていたが、8 月 14 日から運行を開始している。詳細は別紙チラシをご覧頂きたいが、和泉中央駅～シティプラザ～美術館～和泉中央駅 というコースになっている。3 月末までの日祝日のみの運行としている。大人 500 円、子ども 250 円 今後、道の駅にルートを延伸してそちらも加えた形で予定しており、ルート・ダイヤの見直しを考えていく。

伊勢委員：資料 2 にある、和泉中央駅広場改修について、バスターミナルにおいては一般車の流入は抑止できたがタクシー部分に一般車が流入していることが課題とされている。また、資料 3 において、定時性が確保されたことにより、バス乗務員からも良好だったということである。

南部地域の検討において、校区外から（仮称）槇尾学園への通学について、当初は並行して運行する路線バスに通学生を乗せることを検討していたが、保護者から意見が出ており検討中ということである。

藤間委員：資料 p.7 槇尾校区に関する質問である。①現在のオレンジバスの利用状況について教えて欲しい。②車両数を 1→2 台に変更される根拠について示されたい。③今後、運行経費などランニングコストの検討が必要だが、現在の検討状況を示されたい。

事務局：①オレンジバス利用状況は、直近で今年 4 月～7 月の利用者が、月平均で西ルート 70 人、東ルート 25 人、槇尾山ルート 263 人となっている。主な利用形態としては、横山小への通学や横山病院への通院などである。②車両数の配置については、横山校区及び南横山校区のエリア規模及び通学予定者数の人数を勘案して、設定している。③新たな交通サービスとして車両 2 台配置を検討しているが、ランニングコストは持続可能な交通として車両の適正配置については、目標指標を定めて今後検討していきたい。

関戸委員：①p.8 で見直し案の南横山校区のルートが父鬼口までとなっているが、ここまでとしている理由は何か。また、父鬼口から山側のエリアが運行エリアに入っていないが、それで問題がないか。

②p.12,13 関係者の意見交換について路線バスについて触れられていないが、地域には路線バスが必要であり生活交通として必要で路線バスとして残すという意識が必要ではないか。今回、意見交換会でモビリティ・マネジメントの必要性も含めた説明をされているのか。

事務局：①南横山校区のルートについては、横山病院からの往診が、路線バス父鬼口最寄りの父鬼町内会館で行っていることを踏まえ、ルートを父鬼口までとしている。それよりも山側については、現在、出張診療で受けられている方が徒歩で父鬼町内会館まで来られているとのことではあるが、今後意見を伺いながら検討していきたい。②意見交換会の中では、スクールバスを強く推しているという観点からの議論が多く出されているところである。ただし、スクールバス導入により路線バスの需要が離れ、将来的に減便・廃止の可能性があることの説明は丁寧に説明しているところである。

岩橋委員：①p.7の運行目的で南横山校区は特定利用者のみとあるが、どのような特定利用者を想定しているか。②また、他の方が利用出来ない理由を示されたい。

事務局：①特定利用者は、南横山校区の出張診療を利用されている方を想定している。同校区内に医療機関がないため、現在は市の負担で往診を行っているが、この往診に代わる手段として、地域内（父鬼口）から横山病院への利用者を想定している。②同じ校区内で、診療目的以外の方が利用出来ない理由は、既存路線バス父鬼線との競合を避ける必要から、条件付けしている。

岡本委員：車両はどのようなものを想定されているか。

事務局：今回検討している車両はワゴンタイプを想定している。他市事例ではハイエースコムーター（15人乗り）を改装して8人乗りにしてゆったりとした車内空間としている例もあり、そのようなものを検討している。

伊勢委員：当初の議論では、路線バスに小中学生が乗って公共交通を支えるという議論をしていたところ、保護者からは混乗も含めて異論が出て、以前から180度変わった方針となっているが、教育委員会としては方針をお持ちか。

西村委員：PTA・保護者からの意見を踏まえると、（仮称）槇尾学園へのスクールバス導入について再検討が必要と認識しており、今後、開校準備委員会で具体策を検討したい。

伊勢委員：既存公共交通との競合や役割整理についてはどうお考えか。

西村委員：スクールバス導入となると路線バスと運行ルートが重なることから、交通事業者及び市（交通担当）と調整が必要と認識している。

伊勢委員：通学バスで通学を想定している人数はどの程度か。

西村委員：槇尾学園全体の児童生徒数想定は9学年で360人であるが、うちスクールバスでの対応が必要な人数は、槇尾校区77名（横山34名、南横山33名）、学校区外200名（光明台60名、和泉府中から140名）と想定している。

伊勢委員：路線維持運行バス（父鬼ルート）についてもどう対応するかを議論していく必要がある。小中学生が高校生になると路線維持運行バスを使っていく必要があり、この路線維持運行バスを続けていくのかどうかも含めて議論が必要である。また、オンデマンドバス実証実験とあるが、何を実証するのか、何をもちって本格

運行を考えていくのか。自治体も財政逼迫していく中で、予算的にも大盤振る舞いできない状況と認識している。どこまで市が対応できて、どこから地域ががんばらなければいけないかも検討が必要であり、一定の基準を設けるのかご検討をお願いしたい。

②基本方針2について

伊勢委員：地域バスの継続的な見直しのため乗降調査をするということであるが、乗り込んで一人一人がどこに乗り降りするか、いわゆるODを取って頂けると統計解析で移動実態を分析できる。岸和田市では、OD調査を実施して統計モデルを作ったこともあるが、客観的なデータがあるとルート変更なども議論しやすくなる。

事務局：出来るだけ対応したいが、可能であれば岸和田市における調査フォーマットなど情報のご提供を頂ければ幸いである。

伊勢委員：紹介のあった「のるーと」の運行経費や具体的な数値などは把握されているか。

事務局：入手できておらず、把握出来ていない。

伊勢委員：p.32のスケジュールは和泉市の案だと思うが、この中に補助金申請があり、これは国に補助金を申請するのか。

事務局：国の補助に加えて、今年度から大阪府でも補助金の創設がなされたので、その活用を想定している。

伊勢委員：補助金が仮に獲得出来ない場合は予定を変更するのか。

事務局：オレンジバスの代替ということを考えているが、現在のオレンジバス車両も老朽化している状況であり、槇尾校区は早急に対応していく必要があることから、実証運行は補助金如何に関わらずこのスケジュールで進めていきたいと考えている。

③基本方針3について

居石委員：高齢者おでかけ支援事業が実施されてから2年ほど経つということだが、高齢者は助かっている部分があると思うが、バス・タクシーの地域別の利用の状況など実態が分かる部分があれば教えて欲しい。

岩橋委員：和泉市21校区別の利用率でいうと、一番高い校区は、青葉はつが野校区59.9%、鶴山台54%。逆に一番低いのが南横山23%。バス・タクシーの内訳では、バスの利用率（内訳）が高いのは光明台南校区85.3%、南横山校区70%、青葉はつが野校区68.7%。タクシー利用率（内訳）が高いのは幸校区90.5%、池上校区87.8%、伯太校区84.8%、逆に一番低いのが光明台南14.7%。バスの利用が高いところはタクシーの利用が低くなっている。

伊勢委員：おでかけ支援事業の統計はグラフなど分かりやすい資料をつけていただけるとありがたい。

資料 1-2 の達成状況であるが、(2) 地域バスの市民満足度が 3% と極めて小さいが、そもそも地域バス自体が全域で走っている訳ではないので、過小評価になりはしないか。逆に不満を感じている人を減らす、ということが見栄えが良くなるか。

澤村委員：地域別で分析できれば、その地域特性が良くでるのではないか。

伊勢委員：最終年度の評価においては小学校区単位で評価なり状況確認が出来れば良い。

④その他の事業

澤村委員：岸和田でも自転車通行空間整備の検討が進められている中、本市でも自転車通行を増やすとしたら安全性対策は必要である。オランダなどでは自転車利用に免許制度がある。自転車同士の事故も懸念があり、罰則などを条例などで設ける考えはないか。

事務局：本市では、交通安全指導員という資格を設けており、子ども達や高齢者に対する指導者の養成をしている。交通安全教室の一環としては、事故を起こす危険性や責任問題等についての教育をしており、これは今後も継続していきたい。条例的なものについては基本的に道路交通法に則る形となり市独自としては想定していない。

岩佐委員：全体を通しての意見だが、(仮称) 槇尾学園の対応について、スクールバスによる対応や A I オンデマンドバスの導入については利用者ニーズとしては分からないこともない。一方、当社は和泉市から「おでかけ支援事業」の増額をはじめ和泉中央駅広場改修などによりバス運行でご支援を頂いていることも理解している。しかしながら、このようなご支援を頂いている中でも、それで支援が足りているかと言われると足りてない状況にある。コロナ禍で大きな赤字を出している中、テレワークなどの進展などでお客様が戻ってきていない状況である。今後、路線バスをどう維持していくかが喫緊の課題であり、維持ができなければ最終的に市民に大きな迷惑をかけてしまう。A I オンデマンドバスの導入についても、資料に記載頂いているとおり、既存交通との配慮、御支援を宜しく願いたい。

伊勢委員：A I オンデマンドバスの取組は一見良いように見えるが、路線バスのお客様を奪うだけになってしまうと、施策としてミスリードになってしまうので、利用側と供給側双方に配慮した分析をお願いしたい。

一方、自転車の利用促進や電動スクーターなど様々な交通手段が出てきている中、自動車に依存した道路空間では対応できなくなることも踏まえ、今後の方針を考えて行く必要がある。

今回の議論のまとめとして、事務局提示の基本方針に沿って進めていくことでご承認頂くことでよろしいか。

－了承－

提示の方針で引き続き進めて頂きたい。

4. その他

伊勢委員：本日、様々な議論がなされたが、特に南部地域（（仮称）槇尾学園の通学対応）について、もともと通学生も路線バスに乗ってもらうという話がスクールバスでの対応に方針が変更になり、またA Iオンデマンドバスなど新たなモビティの話が出てきており議論が変化してきた。地域に対して、丁寧に説明、手続きを進めていかないと、他地域への水平展開が難しくなる。また、背骨となる幹線交通に影響が出ないように配慮してほしい。

事務局：本日は長時間にわたり熱心にご議論いただき、感謝申し上げます。では、本日の委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

